

年間テーマ：上杉家歴代の文書管理と歴史編纂

期間テーマ：謙信関連文書の収集 3月28日（火）～4月25日（火）

資料名	員数	法量 (cm)	時代	番号	所蔵
複製 狩野永徳 国宝上杉本洛中洛外図屏風	六曲一双	各160.4×365.2	室町～桃山 (16世紀)	複製B	上杉博物館
国宝 上杉家文書 (赤筆笥坤六之段 レ印) 1 上杉謙信宛 無量寿院快慶書状	1通	20.8×55.0	(天正3年・1575) 7月21日	950	上杉博物館
国宝 上杉家文書 (赤筆笥坤六之段 レ印) 2 宝幢寺清胤宛 無量光院宥義書状	1通	34.1×47.2	(天正3年・1575) 7月28日	951	上杉博物館
国宝 上杉家文書 3 赤筆笥坤六之段 レ印袋	1点	22.6×10.8	(文化14年・1817)	-	上杉博物館
上杉文書 4 御記録所「諸書上 卷之一」	1冊	27.8×19.0	文化14年 (1817) 4月13日条	752	上杉博物館

上杉文華館では、国宝「上杉家文書」を毎月入れ替えながら常時展示しています。上杉家文書は、江戸時代以降に行われた文書の管理や歴史編纂を通じて、中世以来の上杉家の由緒や権威、特定の当主の事績を示す文書が収集、選別され、移動や変化を続けながら、現在の構成（2018通、4帖、26冊、保存容器として両掛入文書箱、精撰古案両掛入文書箱、黒塗掛硯箱、赤筆笥 乾・坤2棹、附として歴代年譜325冊）になったことが明らかになっています。

また、「上杉家文書」とは別に「上杉文書」と呼ばれる藩政文書を中心とした1万点弱の史料群があり、米沢市では令和3年度から文化庁の「地域活性化のための特色ある文化財調査・活用事業」の補助を受け、調査に取り組んでいます。その中核は文書管理や歴史編纂を担った、江戸時代の御記録方や、近代の上杉家記録編纂所総裁伊佐早謙の関連文書です。上杉文書には、国宝「上杉家文書」を深く理解するための手がかりが、豊富に含まれています。

今年度は本調査事業の成果を活用して2つの史料群を紐解きながら、江戸時代から近代にかけて、文書の具体的な管理方法と歴史や記録の編纂事業、その背景にある藩政の状況や世情をご紹介します。永年にわたり文書を守り伝え、活用してきた人々の営為にご注目下さい。

〔謙信関連文書の収集〕

江戸時代の米沢藩主上杉家では、謙信を家祖と位置づけ、その遺骸を米沢城本丸の御堂に祀り神格化しました。あわせて謙信の関連文書も重要視され、厳重な管理と収集が図られ、古文書集や歴史書の編纂に利用されました。

寛永16年（1639）には、2代藩主定勝のもとで家臣に謙信・景勝の御書・感状を提出させ、「古案集」が編纂されました（上杉家文書に伝来）。元禄8年（1695）に完成した、米沢藩の儒者矢尾板三印による「謙信公御年譜」の編纂は、関連文書収集の一大契機となりました。編纂の準備段階で、元禄4年（1691）と同9年には家臣や領民に所蔵文書の差し出しを命じ、古文書集「御書集」が編纂されています（上杉文書に伝来）。第9代藩主上杉鷹山のもとでは、安永元年（1772）に、謙信・景勝・定勝の自筆書状を選別して、謙信愛用とされる掛硯箱に収めました。この保管体制は、両掛入文書、精撰両掛入文書として現代まで受け継がれています。また、上杉家系図の編纂や、重要文書の管理と記録編纂にあたる御記録所の体制強化が図られました。

今月は、上杉謙信に関する高野山の高僧の書状を展示します。あわせて、これらの文書が江戸時代に移動を繰り返し、米沢藩で収集し御記録所の管理下におかれるまでの過程をご紹介します。